

## 油久小学校開校 150 周年記念式典 学童疎開や児童を見守る「たぶの木」をテーマにした劇を披露



11月27日に油久小学校で、開校150周年の記念式典がありました。

式典では、児童らによる油久小学校の歩み、戦時中の学童疎開や、校内にある「たぶの木」をテーマにした劇の発表などがあり、出席者は油久小学校150年の歴史に思いを馳せました。

また、場内には写真アルバムなどの展示品があり、写真をのぞき込み、当手を懐かしみ会話する姿がありました。



## 地域おこし協力隊通信 (No. 59) 中種子町の資源を広めるために

種子島に来てから、私の地元である東北では見たことがない様々な自然の資源を知りました。

例えば月桃<sup>げんとう</sup>。北限と言われる佐多岬付近では、契約農家さんが一生懸命栽培し、化粧品などを製造しているそうですが、種子島ではあちらこちらで自生しています。

初めてこの葉のお茶を飲んだ時は、シナモンのような香りが心地よく、すぐに好きになりました。更に、赤い実を煮出すと綺麗な紅色になります。月桃には鉄分が含まれており、飲んだ人の気持ちを穏やかにすると言われているようです。

月桃の他には、ニホンミツバチの巣を原料にした自然由来100%の蜜蠟<sup>みつろう</sup>クリーム。ニホンミツバチの巣から抽出した蜜の成分と、同じく種子島に自生している椿から採れたオイルを混ぜて作ります。

蜜蠟は保湿・抗菌力に優れていて、ボディクリームやリップクリームのように使うことができます。

自然由来ですから、化学製品にアレルギーがある方でも安心して使うことができます。

中種子町には素敵な物を作れる方がたくさんいらっしゃいます。一歩ずつではありませんが、そうした地域に根付いた資源を少しずつ形にして、商品をきっかけに中種子町を知ってもらえれば嬉しいです。

—湯目由華(ゆのめゆか)—  
中種子町地域おこし協力隊員。岩手県出身。誰かの「やってみよう！」と一緒に実現する人。地域デザイナー／コピーライター。



こんな魅力的な資源を島内外の人に知ってもらえたら、中種子町の魅力がもっと伝わるのではないかと、作り方を教えてくれた町民を先生に迎えてワークショップを行いました。

参加者の方から「ぜひ商品にしてほしい」という後押しの声もあり、種子島の植物を使ったお茶と蜜蠟クリームの商品化が動き出しました。